

「日本のユネスコ生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）およびジオパーク内の遠隔地域活性化を目的とした世代間学習」の概要について

1. 名称：
日本のユネスコ生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）およびジオパーク内の遠隔地域活性化を目的とした世代間学習
2. 機関名：
金沢大学
3. 担当者名：
ママードウァ アイダ
MAMMADOVA AIDA 国際機構 准教授
4. 特徴等：
 - 金沢大学は、白山ユネスコエコパーク※¹ 及び白山手取川ジオパーク※² を、少子高齢化問題を抱える離村の地域活性化を目的とした留学生向け ESD 活動のプラットフォームとして利用している。これまで 23 か国から 400 名以上の留学生在がこの協働プロジェクトに現地参加、また約 250 名がオンライン参加し、地域住民や自治体と共に地域貢献活動を行ってきた。村の住民は「先生」として地域生活や地域問題について教える役割を担い、村全体が「大学」として機能している。
 - 本プロジェクトは、国際的・国内的なユース・ネットワークの構築を推進し、少子高齢化問題を抱える地域において、留学生と地元住民との世代間交流を促進した。この交流が、両世代の価値観や行動にポジティブな変化をもたらし、地域住民が地域活性化のための様々な活動に取り組むことにつながった。

※¹ 白山ユネスコエコパーク：ユネスコエコパークは、生物多様性の保護と持続可能な自然と人間との共生を目指す地域として、ユネスコが認定する生物圏保存地域。白山は1980年に認定。

※² 白山手取川ジオパーク：「白山手取川」は日本ジオパークとして日本ジオパーク委員会より認定されていたが、令和5年5月にユネスコ世界ジオパークとして認定された。ユネスコ世界ジオパークは、地質遺産を保護し、そうした地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、科学研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生及び持続可能な開発を実現することを目的としている。



お祭りで地元の人々と集合写真



地域の課題について地元の人々と対話